

## 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

### 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

### ○記入方法

#### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

#### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

#### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

#### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

### ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団健昌会ぐるーぷほーむ新里城栄 4階
(ユニット名)	朗々(ろうろう)
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市城栄町11番2号
記入者名 (管理者)	中村浩介
記入日	平成 20年 12 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同法人のグループホームが作った理念を基本にしたものを開設時に独自の理念を職員全員で考え作り上げてきました。理念の最初に掲げている「ご入居者は人生の大先輩です」という言葉を大切にし、さらに理念の4番目「日々の暮らしの中で春夏秋冬を楽しんでいただきましょう」という言葉の中には、地域の中で、地域の行事にも参加しながらと言う職員の思いが込められています。		
	○理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の最初に掲げている「ご入居者は人生の大先輩です」という言葉を大切にし、日々ご入居者が生き生きと輝ける為に職員全員で取り組んでいます。毎朝、朝礼で理念を唱和するとともに、管理者は職員一人ひとり個別に、日々のケアの中や会議の中で具体的に理念に結び付けて伝えている。その成果もあり、職員の行動にも振り返りの習慣がついてきており、地域の中で、ホームの中で、ご入居者の為にできることは何かを考えたケアを、個別に取組めるようになってきています。		
	○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	開設時、理念を掲載した広報誌をご家族や地域の方々が気軽に手にとっていただける場所に置き、玄関やフロアに理念を掲げて来館された方に見やすい場所に掲示しています。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎朝、近隣の清掃時挨拶を交わしたり、日常にご入居者と共に商店街や近隣を散歩や買い物をしています。商店街、自治会、青年部の方々からも挨拶や声をかけて下さったり良い関係を築きつつあります。		
	○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・商店街夏祭りでは、ビール早飲み大会・カラオケ大会にご入居者と職員が一緒に参加し、自治会文化祭では貼り絵でご入居者個人と団体で出品し見学することが出来ました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会婦人部より、文化祭への出展作品の講習依頼を受け2階多目的室でペーパークラフトを使ったかご作りを実施しました。 健康教室が2～3ヶ月に1回、2階多目的室にて開催されるようになり、参加者も徐々に増えてきています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員が全項目について行うことで、自分達に何を求められているのか理解し、改めて今の現状を見直すことができました。自己評価を活かして改善が必要なことをミーティングで話し合い取り組んでいこうと考えています。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第7回運営推進会議後、自治会会長、商店街理事長、老人会会長や第1回健康教室後に希望された参加者の方々に見学をして頂き、施設設備の安全性や室内様式、生活の雰囲気を理解して頂きました。近隣の幼稚園、学校、老人会など地域に提案し、原爆慰霊行事や敬老会での園児の遊戯披露など交流が出来つつあります。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターのセンター長が運営推進会議に参加されており、市役所へ運営推進会議録などを提出していただけています。 長崎市介護保険課に事故報告書を提出し報告を行っています。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご家族の依頼で裁判所の事務官が調査にこられた時にご本人が動揺、混乱しないよう同席し終了まで立会いました。 以前、ご家族の方から成年後見人の手続きを行っている報告をうけています。権利擁護に関する資料等を全職員に配布しました。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を開催し、慣れが生じないように自分の関わりを振り返るという内容の勉強会に参加、現状を見直し、問題や改善が必要な場合、対処を検討して早急に解消できるよう努めています。同法人のグループホームと身体拘束委員会を発足し、定期的に委員会を開催しており、職員へ身体拘束に関する資料を配布しました。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間に余裕を持たせ個室で行い、必ず質問等受けるようにしています。説明の仕方や分かりやすい言葉で話すことで納得・理解をしていただいています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご入居者も出席していただきご意見をいただいています。日々の生活の中で、ご入居者からの意見、不満、苦情は記録に残し、ユニットミーティング時に意見交換を行い、改善策を話しあっています。又、職員がご入居者と個別に話す環境をつくり、信頼関係を築けるように努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり、健康状態、金銭管理については、面会時に口頭で報告したり記録物を読んでいただいています。県外や面会が難しい家族には月に1回電話を入れたり手紙を出しています。預かり金は、面会時に出納帳を確認していただいています。こちらの声かけや報告、情報提供、相談の現状の見直し、医療分野はナース、中堅職員からはケアに関する提案・相談、その他職員からは日常の様子や面会時前の様子を報告するよう取り組んでいます。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、入居者ご家族も出席していただき意見を述べられています。1階にご意見箱も設置し、ご意見箱を周知していただけるようポスターを掲示しています。ご家族から気軽に接して頂けるよう、職員の氏名と写真等を掲示しました。徐々に職員を名前で呼んでいただけるようになってきています。お茶をお出しし気兼ねなくゆっくりご入居者と時間を過ごしていただけているように努め、居室の入室前や退室後に声掛けを行ったことでご家族の意向や相談が随時うかがえるようになってきています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はミーティングで意見、提案を出し現場をまとめている中堅職員を通して内容の報告があります。運営者や管理者は報告内容を検討し可能なものは反映しています。運営者である統括責任者は、職員の休みの希望になるべく応じたり、食事会など親睦を深めるよう努めています。管理者は健康面・心理面・仕事面で気になる職員には個人面談を行い、悩みを聞いて気持ちを話してもらい取り組みを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病院の送迎者数が増えたので、夜勤の時間帯を調整し職員を確保しています。現場の変化に応じて、中堅職員のミーティングで話し合い、必要な場合は管理者が運営者である統括責任者に報告し勤務の調整を行っています。併設事業と連携を図り、対応・送迎等の確保に努めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である統括責任者は、異動は極力しない方針であり、異動が必要な際は、管理者が目的、内容は事前に説明し、指導を行っています。異動職員は、異動前から事前に現場に入る勤務の調整をおこなっており、ご入居者やご家族にも周知していただけている。その後、ご入居者との馴染みの関係が築かれ、職員の視野も広がり職員間も理解、協力意識ができています。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の教育計画を基に各職員に対して育成計画を立てています。月に1～2回法人全体の勉強会が開催されており、併設事業所と同法人のグループホームで合同の勉強会を行っています。月1回のミーティング時に勉強会で学んだことを現場でどのように活かしているか、現場でどのような変化があったかを確認することで職員全員へ現場での実践、活用の意識付けができつつあります。現場で抱えている問題を勉強会担当者が勉強会協議の場で提議しあい、優先順位をつけ勉強会に取り入れています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員はグループホーム連絡協議会の勉強会、交流会、総会等へ参加することができました。職員に感想を聞いたりすることで何をそこで知り得たか、感じたかを現場に活かすアドバイスする機会となっています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と随時、業務について悩みや問題がないか個別に声をかけ、話すようにしています。親睦会なども行っており、職員間で意見交換や交流の場をつくっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員一人ひとりに役割を持ってもらい、意欲的に仕事ができるようにしています。役割を持つことで、仕事に取り組む姿勢や責任感を持って業務を行えるようになってきています。</p>		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いつもと違う変化に気づいたらまず声をかけ、その方の落ち着く場所や居室でゆっくりお話をうかがえるよう努めています。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の表情や言葉等細かなところにも注意を払い、思いを感じとるように努めています。ご家族に気軽に話していただける関係を築けるような機会、話しやすい職員、環境づくりに取り組んでいます。</p>		
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご入居者やご家族から相談を受けたことについて、何を必要としているかをその時の勤務職員間でご本人・ご家族の思いをふまえながら話し合いを行うことを随時実施しています。</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームに入居する前は、入院や入所をされている方が多い。家族がホームを見学された後、管理者・中堅職員がご自宅や施設を訪問し、ご本人とお会いするようにしています。入居のことは、家族からご本人に十分説明をおこない、納得いただいた上で入居していただくようにしています。ご本人が納得の上、入居されているためトラブルは少ないが、帰宅願望の強い方には常に職員が傍に寄り添い、夜間の不穏時に一緒に外に出かけたり、家族の協力もいただき、家族の声が聞きたい場合は自宅に電話をしたり、訪問していただいたりして馴染んでいただけるよう取り組んでいます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その方にとっての喜び、悲しみ、苦しみ、楽しみを知ること に努め、私たちにできること、してほしいことは何なのか検討し、その方にとって充実した日々となるよう取り組んでいます。 ご入居者のできる事ややりたい事を見極め、共に考え支えあう関係を大切にしています。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いの中で、家族でしか満たすことができないことがあるときは、本人の状況、思いをご家族に相談し、家族の方と一緒に本人を支えるようにしています。	○ ご家族から本音をうかがえるような機会と関係づくりに取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	食事会や催し物がある際は、事前に声をかけて本人と家族が話す場を作り、家族との良い関係が築けるように支援できていると思います。又、気軽にいつでも外出や外泊ができるようにしています。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣からのご入居者が多いので、散歩時や買物へ出かける と商店街や神社、学校など馴染みの場所が多く、ドライブなどでは、昔住んでいた家や職場、故郷を思い出すような景色が見られる場所へ行ったりしています。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時にご入居者同士がよりよい関係が築けるように座席の工夫や好み、特技が共通した方への共同作業の提供や好みや特技を活かした役割の提供による協同作業の提供を行なっています。	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在の所、サービス利用が終了した方がおられません。	○ 今後、他の施設や自宅に戻られるなどサービス利用が終了された場合は、いつでも気軽に遊びに来ていただいたり、行事などの案内をして参加して頂ける様にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時、希望、意向、悩みなどをご本人に話しをうかがったり、ご家族より情報収集し、ケアプランを検討しています。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からアセスメントをとり、日常生活の会話の中で、これまでであった色々な出来事などを知ることができるように努めています。アセスメント内容を把握し会話、対応に活かしています。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりに合った過ごし方やその方らしい姿を把握するように努めています。業務日誌・個人記録にも記入し、職員全員が情報を共有できるように努めています。又、体調の変化があった時は、その都度アセスメントをとっています。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時、ご本人、ご家族に要望をうかがいユニットミーティングにて検討、意見交換の場を設け介護計画に反映し介護計画を作成しています。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの期間に応じてご入居者の状態変化や状況によって見直し、作成を行なっていますが、大きな変化が見られないや突発的な変化があった場合は随時本人、家族、必要な関係者へ確認、話し合い、必要時対応方法をケアプランチェック表に手書きで書き込み現状に即したケアを実施しています。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録では、ご本人の言葉や表情、エピソード等を記録に残すようにしており、全職員が勤務開始前に確認するようにしています。又、申し送り時に口頭でも報告をして共有し、介護計画の見直しに活かしています。	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして、ご入居者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援に努めています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署と連携を図り、支援していただけるようにしています。今年の消防訓練では、自治体の消防分団の方からアドバイスと消防マニュアルについてのご意見をいただきました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の意向に応じて、医師やPTへ相談、情報提供を行い同法人のリハビリ活用や、近隣の美容室でのセット・メイクや訪問美容サービスを行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加して頂いており、協働できるように取り組んでいます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と管理者、中堅職員が情報を共有できるようになり、医療と介護の面から問題を検討することができた。中堅職員が入居者や家族からの希望、相談を受け看護師へ申し送り、主治医へ希望・要望を伝えることができるようになっていく。家族も希望・必要に応じて、訪問診療に立ち会われるようになっていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携機関に専門医が入っており、ご本人、ご家族の希望によって近隣の専門医や以前からのかかりつけ医に受診できるようにしています。専門医から診断や治療、対処方法等の指示をもらい信頼関係を築きながら相談に応じていただけるよう努めています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所と併設事業所に看護師を配置しており、ご入居者の状態変化に対する対処、受診結果、薬の変更等を看護師間で共有、連携し常にご入居者の健康管理や状態に応じた支援ができるようにしています。24時間協力医療機関の主治医や看護師と連絡がとれるようにしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医療機関に情報を提供しています。定期的に面会と状況把握に努め、医療機関と相談をしながらご入居者、ご家族の意向を確認し速やかな退院に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医療機関の主治医、看護師等と話し合いをもち看取りの指針をつくっており、契約時に説明し同意を得ています。ご入居者やご家族が安心してサービスを受けられるよう、看護師による体調や病状の確認や急変時の対応、連絡体制マニュアルを主治医や看護師と検討、作成し設置しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご入居者、家族の意向をうかがった際は、看護師へ伝え主治医に報告、意見をうかがい対応を検討し職員が混乱しないようマニュアルを作成しました。ミーティングでも、重度・終末期の方の話し合いの場を設け、検討や今後の変化について看護師から説明を受けたり急変時に備えて準備をしています。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在、住み替えをされた方はいないため、実施したことはありません。他事業所に移られる際は、アセスメントやケアプラン、支援状況等を渡すと共に、情報交換を行い、馴染みの職員が機会をつくって訪問するなど住み替えによるダメージを最小限に食い止めるよう努めたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、日々の関わり方で問題があるときはその都度、管理者や職員間で注意をしています。	○ 対人サービスに関わる者として、注意深く扱うべきプライバシーの保護の徹底や個人情報保護法の理解に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の意見を押し付けず、ご入居者が決めかねている時は複数の意見を提供し、自己決定ができるよう支援しています。ご入居者と過ごす時間を通して、希望、関心、嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選びやすい場面づくりに努めています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れの目安はありますが、ご入居者の体調や要望に合わせ、それぞれにあった、個別支援を心掛けています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望で家族が来られ散髪されています。その他の方は毎月1回の美容サービスを利用されています。近所のお店で、自分で選んだ髪飾りやピンなどを買い、おしゃれをされています。その日に着たい洋服を選んでいただいたり、お化粧品をしていただいています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好きな料理を出来るだけ献立に取り入れるようにしており、調理、盛り付け、片付け等もご入居者と共に行なっています。昔ながらの料理や郷土料理や出来るだけ旬の食材を使用して、食事中的話題づくりを提供し、より食事が楽しくなるように努めています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	疾患等で制限がある方以外は食べたい物を買いは出かけ、疾患がある方でも、主治医に相談してできるだけお好きなものが食べれるように努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムを把握する為にチェックシートを作成し、排泄パターンを把握しトイレへ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に本人にどれくらいのペースで入りたいか確認をして入浴の際は、ご本人に入浴の希望の有無を確認しています。確認が取れないご入居者においては清潔が保てる入浴回数・入浴日を予定させていただいて声かけしています。また、怪我、体調等で入浴できない方は清拭をし清潔を保つように支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。又、体調に合わせて日中も適度な休息が出来るように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特技や趣味等を活かした一人ひとりに合った作業をお願いしたり、披露していただき、その方のもっておられる力を活かした支援をしています。	○	ご入居者の特技や趣味を活かしたことへの情報収集に取組み、一人ひとりにあった楽しみごと等をご入居者と一緒に考え、必要時はご家族の協力を得ながら支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より現金を預かり、事業所が管理している方でも、買い物や支払いの際はご自分で支払っていただけるように手渡し支払っていただくなどの支援をしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、散歩や買い物へ出かけ、お弁当を持ってドライブへ出かけています。(運営推進会議で外出報告書を提出しています。)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご入居者に希望を聞き、退職される前の職場、地元のお祭り、ご入居者のご自宅付近めぐりや併設事業所との合同ドライブへ行ったり、行きたい人と行きたい所へ出かけられるよう支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に来られた方へお礼のお手紙を書いたり、家族の協力を得ながら自宅に電話をかけられるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来館される方へ歓迎の言葉を伝え、お茶を召し上がっていただきながらゆっくりと過ごしていただけるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵、センサーマット使用も生命に関わる場合のみ必要と最小限にとどめ、拘束しないケアに努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけず、ご入居者と一緒に作業を行いながら、フロアの状態を把握するように努めています。夜間は定期的にご入居者の様子を確認するとともに起きられたらすぐに対応できるよう居場所を工夫しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中鍵はかけず、ご入居者と一緒に作業を行いながら、フロアの状態を把握するように努めています。夜間は定期的にご入居者の様子を確認するとともに起きられたらすぐに対応できるよう職員の配置場所を工夫しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりのADLに合わせて注意の必要な物品は家族・本人に相談をしています。また、使用するときにはできるだけ職員見守りのもと使用していただくように努めています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	関連する勉強会に参加しています。各種マニュアルを作成し、いつでも確認出来る様に設置しています。ヒヤリハットが起きた時は必ず記録に残し、事故を未然に防ぐことができるよう取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変・緊急時対応マニュアルを作成しており、看護師と医師と24時間連絡が取れるようにしています。また、急変する可能性がある方についてはユニットミーティング時に看護師が説明・確認を行い、対応がスムーズに出来るように努めています。全ての職員が、勉強会や消防署の研修で蘇生術や救急手当の方法などを体験、習得できるように進めています		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しています。年に2回の消防訓練を行い、初期消火・通報・避難誘導の周知・徹底や勉強会で実技、知識を深めています。夜間を想定した訓練を行い訓練終了後、運営推進会議で報告をし、自治会や商店街など地域の方からご意見をいただいています。マニュアルについては自治会消防団からアドバイスをいただきました。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、近況の報告をし、ご家族の意向をふまえて対応しています。転倒のリスクが高いご入居者に対しては、全職員で検討し予防処置報告書を作成することで、事故を未然に防ぐとともに、職員間でも意識付けが行えるようになってきてます。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行っており、体調の変化や異変の早期発見に努めています。異変があればバイタル測定後、看護師へ報告し対応しています。又、変化や異常に気付けるように看護師からの申し送りや説明、記録物で情報を共有し観察に努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースファイルに薬情報書、処方箋を綴じ全職員が内容を把握出来る様にマニュアルを作成しています。ミーティングでも確認の場を設け、看護師が説明や質問に受けられるようにしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックシートを作成し確認がとれるようにしています。また、ヨーグルトやバナナ、繊維の多い食べ物を献立に取り入れる工夫を行なっています。個別の運動の取り組みを行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は声かけをして口腔ケアをしています。能力に応じ職員が見守ったり、介助を行なっています。就寝前に義歯の洗浄を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎食記録するようにし、摂取量が少ない方には個別に対応を考え、摂取して頂ける食材や調理法などの工夫と声かけ、介助をしています。一人ひとりに合わせて、食材の大きさなどの調節やとろみをつけ状態にあわせて提供しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成・設置しており、感染症に関する資料を全職員が確認できるようにしています。また、ご入居者、職員共にインフルエンザの予防接種を受け、。ノロウイルス対策として塩素消毒やペーパータオルを使用する等の予防を徹底をしています。H20 .12.インフルエンザ、ノロウイルスの予防や対応の勉強会の参加を予定。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁・ふきん等は毎食後毎日消毒しています。また、食中毒の季節はしっかり火を通すなど取り扱いに留意しています。賞味期限確認の徹底をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物入口には、地域の方が気軽に利用して頂ける様にベンチを置き花や緑のプランターで飾り親しみやすいようにしています。又、玄関にパンフレットを置き、施設の案内や建物の紹介・案内をすることで安心して出入りして頂ける様にしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルにはご入居者と選んで買ってきた季節の花を飾ったり、季節に応じた飾りをしています。季節のものを折り紙で折り飾ったり、入浴には香りの良い入浴剤を使用しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂テーブルで趣味の書道をしたり、ソファではテレビをみたり、かご作りや編み物をしてゆっくり過ごされ、床暖房をつける時期になるとリビングのカーペットに寝転んだりされています。通路の椅子、食堂、リビングソファでは一人ひとり過ごしたい場所でゆっくり寛がれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が今まで使用していた机やミシン・家具・仏壇などを家族にもってきてもらいできるだけ馴染みのものを置いてもらえるようにしています。また、外出時に取った写真等を飾ることで楽しい思い出話ができるよう努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時や食事後に換気をしています。冷暖房はご入居者の希望も聞き室温を確認しながら温度を調節し、タイマーの使用をするよう努めています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や家具の配置等、生活空間で転倒につながる原因がないかをチェックし、身体機能の変化など現在の状態に応じた生活環境の改善に努めています。全職員が常に確認を行いミーティングで検討し予防処置の作成に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室ドアに名前や目印になるようなものを張ったり、一人ひとり好きな暖簾をかけ混乱しないように生活できるように工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには、椅子やテーブルを置き、日光浴をしたり花を觀賞したりしています。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ぐるーぷほーむ新里城栄 朗々(ろうろう)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所が商店街の一角にあるという特色を活かし、ご入居屋の要望に応じて個別に商店街や近隣に毎日積極的に出かけています。近隣から入居された方が多いこともあり、地域でされていたことや馴染みの方に会うことが継続できるよう支援することを大切にしています。

年間の外出行事（花見や温泉など）のほか、天気の良い日はご入居者の希望をうかがいお弁当を持って遠方へドライブに出かけたりすることもあります。

ドライブでは四季折々の景色を見ることができご入居者に喜んでいただいています。

人生の大先輩であるご入居者が得意分野で力が発揮でき、主役となれるような機会づくりを心掛け、料理、貼り絵、運動等一緒に行なっています。